

令和5年度第2回熊野市総合教育会議会議録

1. 日 時 令和6年2月21日（水） 午後3時30分から
2. 場 所 文化交流センター 交流ホール
3. 出席者 熊野市長 河上敢二
熊野市教育委員会
倉本教育長 根引委員、糸川委員、北野委員、澤田委員
4. 事務局関係
教育委員会事務局
雑賀総務課長、伴学校教育課長、柳本社会教育課長
浦坪学校教育課長補佐、森倉学校教育課指導主事
中尾総務課長補佐、泉総務課庶務係長
市長公室
西市長公室長
総務課
吉田総務課長
5. 事 項
 - (1) これからの図書館運営と生涯学習をどう進めていくか
 - (2) 学校教育課の事業及び取組についての総括評価

雑賀総務課長 大変長らくお待たせいたしました。
定刻になりましたのでただいまから、令和5年度第2回目の熊野市総合教育会議を始めさせていただきます。
本日司会進行を務めさせていただきます教育委員会総務課長の雑賀でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。
開会にあたりまして、河上市長からご挨拶をお願いします。

河上市長 皆さんこんにちは。お忙しい中、第2回の総合教育会議にご出席をいただきありがとうございます。また日頃、市の教育行政の推進につきまして格別のご理解ご協力ご尽力をいただいておりますことに心から御礼を申し上げます。
本日は、二つの議題につきまして委員の皆さんのご意見をいただければと思っているところでございまして、一つ目はこれからの図書館運営と生涯学習をどう進めていくかという議題でございまし

て、社会教育課の今年度の成果と今後の展開についてでございます。

二つ目は学校教育課の事業及び取組についての総括評価を議題として取り上げているところでございます。委員の皆様方には忌憚のないご意見、さらにはご提言をいただければ幸いです。

市といたしましては、少子高齢化が進む中、人生を一つのステージと捉え、老若男女どのステージにおいても市民の皆さんおひとりおひとりのニーズに応じ、学び続けることができる場を提供してまいりたいと考えております。

教育委員の皆様には引き続き、ご理解ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。挨拶とさせていただきます。

本日はご出席をいただきありがとうございます。

雑賀総務課長

それでは早速ですが、事項の方に入らせていただきます。

1 項目目のこれからの図書館運営と生涯学習をどう進めていくかでございます。どうぞ説明、簡潔にお願いいたします。

柳本社会教育課長

こんにちは。

社会教育課の柳本と申します。よろしくお願いいいたします。社会教育課では、これからの図書館運営と生涯学習をどう進めていくかについてご説明させていただきます。1ページをご覧ください。

まず生涯学習とはどういうものかということを整理いたしました。生涯学習とはですね、人々が生涯にわたっていつでもどこでも自由に行う様々な学習活動ということとなっております。その生涯学習には、教育による学習そして自己学習から成り立っております。教育による学習の中にはですね、学校教育による学習、そして家庭教育による学習、三つ目は社会教育による学習となっております。

今日、私がお説明するのは、この社会教育を中心に説明させていただきます。3ページをご覧ください。

図書館講座の充実に関する検討課題ということで今日私が説明した後、皆様のご意見ご提案をいただいて、今回の皆様のご意見を取り入れてよりよい学習、生涯学習そして図書館運営に生かしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

まず、検討課題については、1 学習活動の拠点となる図書館の充実、2 多様な講座や学習機会の提供、そして3 学習情報の提供でございます。この3つを中心に皆さんにいろいろ意見を聞かせていただきたいと思います。

皆さんの意見を聞かせていただく前に4ページになりますけれども、これまでの図書館、そして生涯学習、教室とか、講座ですけれども、その取組の成果と内容あるいは今後の主な取組について簡単ではございますけれどもご説明させていただきます。まず4ページの図書

館1というところですがけれども、子どもの心づくりに関する取組ということで、読み聞かせを中心に説明させていただきます。

1番の読み聞かせなんですけれども、3つありまして、「おはなしなあに」、「おはなししてくてく」、「おはなしわくわく」というふうにあるんですけれども、乳幼児から小学校低学年まで子どもの成長に合わせた読み聞かせ等をボランティアによって実施いたしました。今後の取組としましては、成長しても読書を続けていくには、子どもの頃に読み聞かせを経験していることが重要であると考えております。今後もこれまで通り活動を継続していきたいと思っております。

2番の絵本作家ワークショップ事業ですけれども、三重県在住のフリーイラスト作家・あそび作家として活躍されている浦中こういちさんをお招きしました。親子参加型の内容でしたのでアンケートをとった結果本当に好評でした。来年度も親子で楽しめるようなイベントを企画したいと考えております。

4番のブックスタートへの職員派遣ですけれども、4か月健診の際にですね、司書が、健康・長寿課の方へ出向いてパンフレット等を用いて図書館の利用について説明しております。そこでブックスタートということで、本を提供してるんですけれども10か月健診のときにも希望者にリサイクルブックをお渡ししております。このような取組を今やっております、これからも健康・長寿課のブックスタート事業なんですけれども、そこに司書を派遣しまして、例えば「おはなしなあに」へ参加の案内や、図書館で絵本を借りていただくような取組を引き続き行っていきたいと思っております。

続きまして5ページになりますけれども、図書館利用者を増やす取組ということで1のナイトライブラリー、これは令和5年度から始まりました。大人のライブラリーなんですけど、第3回目のときに朗読をやったんですけれども、そのときに絵本の読み聞かせもさせていただいております。この大人への絵本読み聞かせは結構好評でしたので、来年度も引き続き実施したいと考えております。

4番の出張図書・リサイクルブックの提供ということで、図書館の利用者が少ない地域に出向き、市の出張所において1ヶ月間、図書の貸し出しとリサイクルブックの提供をいたしました。来年度も引き続き、場所を変えてですね実施したいと考えております。6ページになります。図書館3というところですがけれども、図書館・読書に興味を持っていただく取組ということで、1番ではキッズ司書育成講座を実施しております。キッズ司書となった児童がですね、友達同士あるいは学校の中で、どんどん読書の場を広げていただきたいという思いがあるんですけれども、できたら学校連携という意味でもですね、

受講した児童に各学校において図書委員になってもらうこともいいのかなと考えております。ということからキッズ司書の取組の中において、図書委員になってこんなことをやってみようというような講座も設けたいと考えております。

4番の「としょかん福袋」ですけれども、自分では選ばない分野の本を、福袋という形で手にしてもらうことにより、読書への関心を高めてもらうということでこれまでやってきております。今年度につきましては、借りられるのが女性の方が多かったのもっと男性にも借りてほしいなということで、例えば小説なんかも増やしたいなというようなことを考えております。7ページになります。

これは学校連携ということですね。1番ですが職場体験の受け入れということで、令和5年度はこちらの職員体制の関係で受け入れできませんでした。令和6年度に関しましては可能な限り受け入れていきたいと思っております。2番の図書館見学受け入れですけれども、これまで令和5年度には新鹿小、有馬小、金山小の図書館見学受け入れいたしました。学校ごとによって要望が違いまして、今まででしたら図書館の説明とかをやっていたんですけれども、もっと子どもたちが本を読む時間を増やしたいという要望もありますので、それぞれの学校の要望を聞いて実施していきたいと思っております。

6番の団体貸出についてですけれども、小中学校の読書環境の充実のためにですね、団体貸出を行っております。図書館で選書する場合は、児童・生徒のリクエストとかですね、今現在流行りのものとかですねいろいろとリサーチして今後も児童・生徒のことを考えながら選書していきたいと考えております。7番の図書館だより配布なんですけれども、これまで紙ベースで、学校等にお配りしていたんですが、今年度から小中学校にはデータを送って、学校の先生が子どもたちにデータで図書館だよりを発信ということになっております。実際これまで紙ベースだったら、その紙を持って図書館にこの本を借りたいていう人が何人かいたんですが今回データ配信ということで、ちょっとそういう人たちがいないというのが現状です。これからはですね、学校の協力を得て紙ベースのものも学校の掲示板に貼るなどの工夫をしていきたいと考えております。

8ページになります。ここからは生涯学習ということで講座教室などを掲載させていただいております。まず子どもの生涯学習ということで、1番の「いっしょに花づくり教室」、これは保護者と一緒にできる人気のある教室でありますので今後も継続して実施していきたいと考えております。2番の「チャレンジ科学教室」、これにつきましてもですねアンケート結果でも満足度が非常に高くて引き続き

子どもたちが意欲的に取り組むことができる内容にまた工夫しながらやっていきたいと考えております。3番の「こども囲碁教室」、これに関しましても、囲碁大会を開催したり、プロ棋士を指導者として招いたりするなどいろいろとやっております。子どもが成長し、次のステップにチャレンジできる教室になるように今後も努めていきたいと思っております。

4番の「巡ろう熊野市の文化財」ですけれども、子どもたちが熊野市の文化財について実際に自分の目で見て興味を持ってもらうということで実施しております。現地では自分の足で歩き、講師による説明を聞く。このようなフィールドワークを今後も引き続き行っていきたいと思っております。

9ページになります。大人の生涯学習ということで、2番の「スマホよろず相談室」なんですが、令和5年度企業と組んでやっております。テーマを決めて、スマホよろず相談室を開催しております。そのテーマが終わったら前年度と同様にわからないところがあれば、参加者の方からですね、いろんなことを聞いていただいてそれに応えるというような内容となっております。アンケートでは参加者からの意見として満足度が高くてですね、次はこんなことを教えて欲しいとか、そういう意欲的な意見がございましたので、今後も引き続き実施していきたいと考えております。

4番の「フラワーデザイン教室」ですけれども、非常にこの教室もですね、人気ある講座ですけれども固定客が多いということで、来年度は平日や土曜日の昼間に開催するなどこれまで参加できなかった人のためにも開催日等を検討していきたいと思っております。10ページになりますけれども、大人の生涯学習ということで、「出前講座」というのを実施しました。令和5年度では大泊町で「大泊の今昔」というテーマで実施しております。今後の取組といたしましては、地域住民の郷土の素晴らしさを再確認していただくためにも引き続き実施していきたいと思っておりますけれども、その場所とかですね、選定がちょっと難しいとか、先生をお願いするのが難しいとかいろんなこともありますけれども、そういった場合はですね、歴史文化にこだわらず、何か開催に向けてですね、いろんなことを題材にしてやっていきたいと考えております。

以上でこれまでの取組と成果等についてご説明させていただきましたけれども、また3ページですね、戻っていただきまして、図書館講座の充実に関する検討課題この3点中心にですね、どんなことでも構いませんので、皆様のご意見、ご提案をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

雑賀総務課長 スクリーンにも出させていただきます。
3ページに3つの検討課題として示させていただきました。委員の皆様には説明の内容をもとにさせていただいて、今後どのように展開すればいいか、または新たな切り口などについて、意見交換ご提案ご提言をいただければありがたいと思いますが、いかがでしょうか。北野委員お願いします。

北野委員 図書館の子ども心づくりの読み聞かせの部分についてなんですけれども、うちも孫がいますしなかなか読み聞かせに行ったりとかする時間的な問題がありまして、できればその読み聞かせをさせていただいている場面をビデオか何かに撮っていただいて、それを図書館へ行ったときに見れるような感じ、ビデオでの視聴みたいな感じのことができればありがたいなと思うんですがいかがでしょうか？

雑賀総務課長 関連しまして他の委員さんからございませんか。

澤田委員 ブックスタートっていうのをしていると思うんですけど、このとき、0歳児から読み聞かせとかを図書館でされてると思うんですけどやっぱりそれにプラスして、おうちでの親から子どもへの読み聞かせっていうのはすごく大事だと思っていて、ただやっぱりその絵本を選ぶのがすごく難しいっていうのがあるので、よく定期購読できるような図書館にも、定期購読できるような冊子が置いてあったりするんですけどもそういうのをもうちょっと紹介して、こういった絵本がいいですよってその年齢に合った月齢に合った絵本をもっと紹介してもらえるといいんじゃないかなと思います。

雑賀課長 ありがとうございます。

他の委員さんいかがですか。

河上市長 ちょっと確認も含めて、4ページの2番の絵本作家ワークショップでR4年度全1回で89人、R5は全1回で53人。その次、秋の読書週間R4年度全1回で59人、R5年度全1回で30人ものすごい参加人数が多いなという印象があるんですけど。それから人数の確認では、6ページに2番の文学鑑賞講座で、R5年度は前半の3回は中田重顕氏が、後半の3回は渡邊芳遠氏が担当者したと、これ6回なのに4回開催で平均56人というこの事実確認をしたいのと、7ページの5の読書感想文R5が8人に一気に減ってるのはどういうことかということのとりあえずちょっと事実確認をお願いします。

雑賀総務課長 社会教育課から説明いたしましょうか。

柳本社会教育課長 先ほどの市長からの人数確認ですけれども、2番の絵本作家ワークショップ事業につきましては、令和4年度の講師の方がかなり有名な方でして、募集かけたところ多くの申し込みがあったということと、あと令和5年度に関しましてはキッズ司書の手伝いという

のがなくてですね、令和4年度はキッズ司書も一緒になって参加しました。令和5年度はキッズ司書がいなかったというのも、人数の違いでもあるということです。3番の秋の読書習慣お話し会スペシャルもですね、人数が減っておりますがこの件に関しても内容的には同じようなことをやっているんですが何で減ったかという分析まではちょっと行っておりません。申し訳ありません。次に6ページなんですけれども、文学鑑賞講座に関しましては、前半3回中田先生で後半3回は渡邊先生ということなんですけれども説明不足で申し訳ありませんでした。これは1月31日現在でして令和5年度に関しましては、あと2回残ってまして今現在やってるのは4回でございます。令和4年度の4回に関しましては1月31日と合わせてわかりやすく比較しております。1月31日現在で比較した数字となっております。

7ページの読書感想文につきましては、4年度の50人から一気に8人に減ったということで、50人っていう昨年度なんですけど、学校単位での応募がありました。小学校の3校ぐらいですね。かなり人数が多かったんですけども、5年度に関しましては学校単位というよりも個人で出してきたっていうのがありますので、来年度は学校でも取り組んでほしいということを丁寧に説明してお願いしていきたいなと考えております。

先ほどの質問について続けていっていいですか。

まず、4ページの読み聞かせのビデオを使って流したらどうだというご意見がございました。これに関してもですね実際に顔を見ながら生の声で聞いてもらうっていうのが効果があるのかなと思うんですけども、やはり参加人数が少なくて、もっと増やしたいこともありますし、時間的にもですね合わないという方もいらっしゃると思いますので今後そのビデオを使って流すということも検討していきたいなと思います。

続きまして、読み聞かせの件で年齢に合った絵本を紹介して欲しい、どういう本を選べばいいのかわかりにくいということでしたが司書もですね、本について詳しいので司書に聞けばどんな本を読めばわかるっていうそういう質問もどんどんしていただいてもいいと思いますし、説明書きとかポップとかですね、この絵本はこういうものが内容ですよっていうそういう説明書き、あるいは絵本の説明文書にしたものをですね紙ベースとかそういうものにしたものを図書館のカウンターに置くなど、そのような形で対応していきたいなと思います。

雑賀総務課長

具体的な方策は、また今後考えていくとしまして引き続き委員の

意見交換に戻ります。糸川委員どうぞ。

糸川委員

この図書館の利用っていうことに関してなんですけど、図書館のその4ヶ月健診の際にパンフレット等を用いて渡してくださったりとか、その宣伝的なことをたくさんしていただいて、また小学校とか中学校とかでも、図書館を使いましょうとか宣伝をしてもらってるのはすごくわかるんですけど、その生涯学習の方に関しては、私もこういう会に参加させていただいて、こういうのもやってるんだみたいな感じで、後で知ったりとか、あと夕刊等でいついつにやりましたみたいな感じで、事前に多分何日にやりますっていう募集もかけてるんでしょうけど、全部のそういう新聞に目を通してるわけでもないんで、市民の人にこういういい講義をやってるのが伝わってるのかなっていう気がしまして、それを広報とかで月に1回の紙とかでは、出てるかもしれないですけど、やっぱり見るっていうより聞く方が、手っ取り早いというか、なのでその広報くまので放送かける際に、こういうこともどんどんどん流していけばいいんじゃないかなって思いました。

赤ちゃんとか子どもさんとかいる家庭にしたらうるさいとか、そういうクレームもあるんじゃないかなっていうことも考えて、12時ぐらいのときにありますよね。お昼のあの時間に合わせて市のやることをお伝えするっていうのはいかがかなって思いました。いいことをやっぱり宣伝した方が市民の人にもわかってもらえるし、いいんじゃないかなと思います。

教育長

この件につきましてはですね昨年度そしてその前から、ご意見ご提言をいただいております。いろんな形、LINEで紹介したり、各出張所に次の年の年間のこういったことやりますよというわかる範囲での広報紙をつくったりあの手この手でやっているんですが、求める人は見ていただけるんですけど、必要としないというかあまり興味のない人は見ていただくことができませんので、例えば自治会の回覧板とかですね、そういったこともやったこともあるんです。あの手この手でですね、また進めてまいりたいと思いますのでこうやったらどうかというようなことがありましたらですね、またお話をいただきたいですし、うちとしても、これでもかこれでもかというような感じで、情報提供を進めてまいりたいと思っております。

市長

糸川委員の言われた話はですね実はこの図書館に限らず、市政全体に言えることで、今教育長が言われたように、自分の関心あることは能動的に情報を集められるんですが、それ以外のことはなかなか自ら情報収集をするというようなことはないんですね。ですからさっき生涯学習の中で常連さんが参加されてるという問題も、常連

の方々は例えばフラワー教室は非常に興味があるのでもう次のフラワー教室いつから始まるか全部知ってるわけです。ですからこれ本当に永遠の課題でさっきちょっと軽く言ったんですけど今、LINE 登録者が非常に増えてきてます。

今後、確かですね熊野市全体で 70 歳以上でも携帯の所有者、スマホの所有者が 7 割ぐらいあるんですね。60 歳だともう 8 割から 9 割ぐらいあったはずですから、今後はその使い方の問題として LINE を登録して、LINE だとプッシュ型で情報提供できますので、そういうことをやらないとなかなか個別にこの図書館とか教育委員会の情報だけじゃなくて市政全体についての情報を届けることは難しいだろうなと思います。

広報が月 1 回ですから、見てもらってもですねおそらく月初めに届ける広報の中に書いてあるイベントが月の終わりだと失念されてしまう可能性があったりですねなかなか難しい問題があって、簡単に丁寧にもれなく情報を届けるっていうのは、本当に大きな課題なんで、教育長も言ったように、我々も地道に努力しなきゃいけない面はあるんですけど、何かいいお話があったらまたお聞かせいただきたい。それと、実は防災行政無線が、一般的な政策情報っていうのは控えめにしようという話があります。確かに夕方に流すとうるさいっていう声がきますので、非常に限定された情報でやってます。それをどこまで広げるかっていうのは、これはこの場ではちょっと答えづらいところがありますのでここも市役所の全体の情報の中で教育に関する情報がどこが流せるかっていうのは、もう一度担当課で検討させた上でできることならやっていきますが、なかなか一方で制約がちょっとあるもんですから、何でもかんでも流せるっていうわけではないってことだけちょっとご理解いただきたいと思います。

糸川委員

その件に関して私は素人なので、そういう縛りがあるっていうのは知らなかったの、ただ選挙のときとかだったら、市とかがもうどうしても行ってくださいみたいなそういう情報のときはもう本当にうるさいほど流しますよね。だからそれは流せて、こういう情報は流せないっていうのも、少し変えていくのもいいんじゃないかなと思います。ただ朝から晩まで流せて言ってるわけじゃなくて、お昼の段階でやってますよ、やってますよっていうような感じで、情報をもう本当にシャワーのように浴びせかける。そしたら興味のない人でも、あんなにしつこく言ってて、何やってるんやろうな、みたいな感じでちょっと行ってみるかみたいな話になるかもしれないので、やっぱり私達みたいな主婦目線っていうか、そういうのも

ちょっとあってもいいんじゃないかなと思いました。

河上市長

反論するわけじゃないんですけど、選挙っていうのは基本的に市長選挙4年に1回議員選挙4年に1回、知事とか県議選とかいろいろあるんで回数的には多いと思いますが、非常に実は限定的な情報です。だからおそらく教育委員会で広報で、情報を流すとしたらおそらく年間限られた回数の情報しか多分出せない。その中で図書館の話を出すのが教育委員会としてトップクラスかというような判断までしないとですね、市役所分野が多いもんですから、みんな手挙げてくるんですよ。ですから、そういう意味で少し検討させてくださいっていう意味で決して否定的に言ってるわけじゃなくて、できる限りのことをやらせていただきたいと思います。

雑賀総務課長

あの防災無線の放送に関してはこの辺でとどめていただいて例えば情報提供に関してとか、他の切り口でも結構ですのでいかがでしょうか？関連して

根引委員

関連あまりしてないと思うんですが昨年12月に私東京の三鷹市というところ行って、三鷹市の図書館をたまたま見学する機会がありました。3階建ての大きな図書館でしたけどね。その1階にはサービスエリアにあるスターバックスみたいな雰囲気のところがありまして、そこで、コーヒーとか簡単な軽食を食べるところがありました。その周りには、高齢者の方が結構多かったんですけども、新聞読んだり雑誌を読んだりしてる方もおるし、奥の方では、女性方が話したり、また右側の方では本をずっと読んでる方とかいろいろおられました。そういうのを見て特に高齢者の方を見て感じたんですけども、家におるよりもやはり図書館に来て、2時間3時間過ごせたらいいかなって感じました。何か図書館が潤いのある居場所になってるようなそういう雰囲気を感じました。ここの図書館も大変本が充実しております。今日見せてもらったら、大変立派な蔵書があるなと思うんですけども、そういうふうな何か1時間2時間でも1人の方がきて居れるようなそういう潤いのある居場所になったらいいなって感じましたということです。

河上市長

実は文化交流センターをつくる時にですね、そういうスターバックスを導入している図書館って全国で前例が1例だけあったんですよ。1例だけあったんですが、そのときに、この駅前に喫茶店があつたりするとですね、なかなか都会だと喫茶店たくさんありますので、図書館に喫茶店できてもそれほど大きな競争にならないんですけど、ここはたくさんお客さん来るのわかってて、喫茶店つくるのは果たしていいのかっていうのと、スペースの問題があつて民間事業者の方に入ってもらわないとできないんですけど、どういう人

を選定するかとかいろいろ検討した結果、やっぱり営業に関わるものは控えさせていただいて、一方で、この駅前にどうしてもこだわって作りたかったのは、多くの人に利用していただきたかったというのがあります。

実はこのセンターはですね、所々に座る場所をつくっているのはそういう交流の場にできないかっていうイメージでつくっていますので、コーヒーは飲めませんが、実際に高校生が待ち時間で2、3人座っていろいろ話してるとかそういうのがあります。ですからその活用の仕方を、その高齢者向けにも考えていくのは一つあるかもしれませんがそこはちょっとまた宿題として事務局に考えさせます。

倉本教育長

できるだけたくさんの方にできるだけいろんな層の方に活用していただきたいという思いは強くあります。三鷹市の例も本当に理想的な形だなと思います。

ただ地理的な条件が熊野市にはありましてですね山間部海岸部そして市街地なかなかちょっとバスに乗ってちょっと電車に乗っていかうということが非常に難しい地域であります。そこら辺をどう考えていくのかとかですね。またそういったところで、市街地の人たち中心、そして参加者の固定化であるとかですね、そういったところに手を当てていくために、できるだけ先ほど申しましたが出張図書館であるとかですね、出張図書館だけではなかなか地域の人に来てくれないので、リサイクルブックの提供をあわせて行うとかですねあれこれ仕掛けてはおるんですが、言っていたいたくつろげる場所である。そして交流の場である。そして、文化や歴史を学ぶ場であるというようなですね、図書館の位置付けをもう少し検討してまいりたいと思っております。

雑賀総務課長

今教育長からもお話ありましたように、この建物は建物で充実させていく、そして情報提供をしっかりとやっていくという中でここに来たくても来れない方っていうのがたくさんいらっしゃる。そういった部分のことについて、何かご意見ございませんか。

根引委員

出張図書大変ありがたいなと思うんです。そういうときに例えばですね、健康・長寿課で高齢者サロンなんかありますよね。そういう他の事業と組み合わせてそこに図書を持っていくとか、他にも関連したのがあるかわかりません。そういう図書だけじゃなく他の関連と一緒にミックスしていくコラボレーションする。そういう活動をしてもらったらもっと人が来るのかなって感じました。

例えばもっといえば、花を配るとかね、そしたら一緒に配りながら話しながら、図書どうですかという形もいいかなとかいろいろア

アイデアがあると思うんですが。

河上市長

非常に良い提言だと思います。元々縦割りで物を発想しすぎるところがあるので、4ヶ月検診のところで、ブックスタートで本を渡すみたいなことやってますから、こういう健康・長寿課だけじゃなくて、他の分野のイベント行事もたくさんありますから、広く考えてこういう図書がいろんなところでお渡ししたり読んでもらえるような仕掛けはちょっとより広げるように。それと今の話に直接繋がらないんですけど、キッズ司書のところで非常に良いことを例えて書いてくれています。例えば図書委員になってこんなことをやってみようというような講座を設ける。こういうふうにも子どもたちが動くみたいなカテゴリーを乗り越える話とか、こういう参加をより積極的に促すみたいな発想でいろんなことを考える方が、ただ待ってこの場所だけで何かをやろうとしてもなかなか改善できないので、こういう新しい工夫をどんどんやるべきだと思います。それと、ちょっと違う話になるんですけど、さっきの常連の方々がフラワーデザイン教室とかに来ると、これやっぱり初めての人の優先枠とか、常連の人も参加したら、例えばこのフラワー教室なんかは3回来たら卒業ですみたいなことをやらないといつまでたっても常連の人だけの場になってきますので、これはフラワー教室だけじゃなくて、それ以外の講座についてもそういう段階を踏んで卒業してもらうとか初心枠を設けて、その人たちを優先するとかちょっと一工夫しないと、いつまでも変わらないんじゃないかとこれはおそらく他のところでも生じてると思いますのでちょっと考えてみた方がいいかもしれません。

倉本教育長

フラワーデザイン教室、それから書道教室等はですね非常に心待ちにしている人がいるし、毎年エントリーしてくる方がおります。ですからいろんなフィルターをかけます。例えば過去5年で何年間受講した人は、後ろに回っていただくそして新しい人を優先的に入っていただくということもやっておるんですが、全体の参加者が減っている中でですね、何年間も来た人は後ろの順番として回すんですけど、定員の中にはどうしても新しい人から入れても入ってしまうということがあります。やはりどの講座も強いニーズがあってもたくさんの人が来ていただくような状況になっていないケースもあります。

だから先ほど言っていたいただいた広報のことだとかですね、参加者はどういった方に参加していただくかっていうフィルターのかけ方であったり、そういったところは今悩みの種でございます。あの手この手でやっておるんですが、どうしても前回の参加者もいます。

毎年毎年少なくなっていく中で苦慮しているところでございます。

河上市長

生涯学習教室でも、海岸部とか山間部で開催するみたいなやり方もあるんで、それもこのフラワー教室なんかもやっていいのかもしれないですね。ちょっと違う話で申し訳ないんですが、私は図書館の本は、割と借りるほう方だと思っています。借りるときに、一つのテーマで極端な話 10 冊ぐらい借りるわけです。地球の歴史だけで 10 冊借りる。そうすると中間がなくて、初歩の本とめっちゃくちゃ一気に難しい本と、中間があまりないような気がするんですよ。ですから、図書館の本はどういう本がどれだけ借りられてるかっていうデータは多分取れるはずですから、あまりにも借りられる回数が少ないそういう本がどういう本があるかっていうのは、緻密な分析じゃなくても 1 回目を通してもらって、高度な本、専門高度な本を果たしてこの熊野図書館で、たくさん入れる必要があるのかどうかっていうのはちょっとありますので、そういう本は三重県の図書館から借りるみたいなそういうやり方をして、より広く何度も読んでもらえるようなそういう本、それだけじゃ駄目だと思うけども、あまりにも高度専門的な本は、ちょっと貸し出される回数があまりにもないと思いますので、ぜひその辺は 1 回詳細な分析はいらないですけど、多分ざっと見たらわかると思います。ちょっと一度分析をお願いします。

雑賀総務課長

ありがとうございます。この項に関しまして委員さんから他ございませんか。様々なご提言、ご提案いただきました。

よろしいでしょうか？社会教育課長から 1 点だけ手短にお願いします。

柳本社会教育課長

1 点だけちょっとご説明というか宣伝というかさせていただきますと、ナイトライブラリーというのがありまして、今度 2 月 25 日午後 7 時 15 分から開催するんですけども、そこで私自身もブックカフェとかちょっと興味があったので、できればそういうものやりたいなと思ってまして、そのナイトライブラリーでミニミニコンサートをやるんですけど、そこで最初にちょっとコーヒーを飲んでもらってゆったりとした気分を味わってもらい、その後に音楽を聞いてもらうというようなことを企画しておりますので、もしよければご参加していただけたらなと思っております。以上でございます。

ありがとうございます。

雑賀総務課長

それではお時間の都合もございまして 2 項目目の学校教育課の事業および取組についての総括評価についての説明をさせていただきます。

伴学校教育課長

学校教育課の伴でございます。

学校教育課の事業および取組についての総括評価について提案いたします。

前回の総合教育会議では、本市の大きな課題である学力向上に特化した提案をいたしました。今回は、学校教育課が所管する事業および取組について概略を説明し、今後の取組に向けた意見を頂戴したいと考えています。

そして、その総括評価を令和6年度改定予定の熊野市教育大綱政策1、学校教育の内容に反映させていければと考えます。よろしくお願いいたします。

今回、熊野市教育大綱の中の政策1、学校教育の内容に沿って説明をいたします。

学校教育の内容はご覧の1から8までとなっています。これらの内容に係る事業や取組について具体例を挙げながら説明いたします。まず1の安心安全の確保についてです。安心安全の確保についてですが、通学路交通安全プログラム等に基づいて通学路点検等を実施しております。ここにありますようにこれまでの点検箇所についてはほぼ対応していくことが可能な状況となっていますが、一部対応が困難な状況の箇所もあります。次に学校防災対策推進事業では、防災教育充実のための研修会を三重大学の川口教授にお手伝いいただきながらやっております。今年度は、研修を全3回実施しています。6月29日に座学の講演、そして12月4日には新鹿小中学校で授業公開、それから来週になります2月29日には、木本中学校のフィールドワークを計画しております。次に(2)心の教育の推進についてお話をします。

人権教育の推進として小中学校9年間を見通した中学校区人権教育カリキュラムを市内全ての小・中学校で作成し、実践をしています。カリキュラムは教科別に具体的な教材などを盛り込んで進めているところです。次に、いじめ対策事業として、いじめの防止のための研修会や、いじめの早期発見、早期対応に活用するための学校満足度調査、Q-U調査というやつなんです。それを実施しています。今年度から子どもたちの1人1台端末ですねタブレットパソコンで実施できるWeb版に変更いたしました。このことによってより早く結果を把握し、取組に繋ぐことができるようになりました。

次です。不登校や不登校傾向にある子供たちの対応をするために、御浜町紀宝町と共同で熊野市教育支援センターを設置運営しています。ここでは子どもの将来の社会的自立に向けた取組支援を行っています。活動実績としてはこの表の通りです。

当センターに対するニーズが高いことが、この表の中の数字を見

ていただいてもわかるんじゃないかというふうに思います。

次です。JFA ころのプロジェクト「夢の教室事業」としまして、日本サッカー協会 JFA に委託し、スポーツ選手などからエピソードなどを語っていただく授業を実施しています。今年度、3年ぶりに対面での夢の教室を実施することができました元 J リーガーの中西永輔さん等に来ていただいて非常に充実した時間を過ごすことができました。

次です。学校図書館図書等整備事業です。

前回、総合教育会議でも熊野市の子供たちの読書離れについては課題であることを提案いたしました。今回のこの資料もその資料になります。来年度は、より踏み込んだ取組を行いたいというふうに考えています。その中では、先ほどもありました市立図書館との連携もより一層深めていければなというふうにも考えています。

次に、(3) の学力向上の推進です。

学力向上については全国学力学習状況調査の結果から、熊野市の子どもたちには国語で大きく課題が見られるというのは、前回の総合教育会議でもお話しをさせていただきました。来年度は、この事業を通して、学力向上に向けより踏み込んだ取組を行っていく予定です。

次です。ICT 教育推進および ICT 教育推進研修会については学校教育課に配置をいただいております。ICT アドバイザーを中心に、これらの取組を進めております。

前回の総合教育会議でも提案しましたが熊野市の子どもたちは全国学力学習状況調査の質問紙調査アンケートのような調査があるんですが、そこで授業での ICT 活用については、全国平均を上回っている回答がありました。一定程度熊野市内 ICT の活用が進んできているなというふうに感じておるところでございます。

次です。くまの未来議会の取組です。主権者教育の一環として、令和4年度から市内中学校3年生全員を対象として実施をしています。今年度は107人の生徒が参加し、各学校の代表者9人が登壇、質問を行いました。

次です。地域未来塾の事業です。

地域未来塾では、長期休業中に小学校高学年を対象とした学習会を開催しています。

講師にはこの地域出身の大学生等を当てて実施しています。

実は今現在教員不足が全国的にも話題となっているんですが、熊野市においても同様の状況は見られます。ただ、この地域未来塾の出身者が既にこの地域で教員として頑張っている状況もあります。こ

の事業の目的としては、子どもたちの学力向上ということでやっとなるんですが、この地域の教員養成にも良い影響を与えているんじゃないかなというふうに感じているところであります。

次は外国語関係になります。

ALTの招致事業とそれから三重大学との共同研究ですが、

ALTについては文科省からの派遣のALTを4人、今市として在籍して各学校への支援を行っているところです。三重大学との共同研究についてはこの外国語教育とそれからプログラミングについても続けております。ただですね令和4年度までは木本高校の敷地内に三重大学教育学部の東紀州サテライト学舎が設置されていたんですが、今年度から有馬小学校の校舎内に移転をいたしました。同時に、大学側の規模が縮小され、これまでのような活動をするのがなかなか難しくなっているんですけども、そのような中なんですけど、一定三重大学の方の協力も得ながら、様々な共同研究を行うことができました。

次は4点目の教員の授業力向上についてです。

本来、教育委員会の指導主事今日も後ろで控えていただいているんですが、この最も大切な業務であるべき学校訪問による指導という部分なんですけども、県の教育委員会の紀州教育支援事務所の指導主事のお手伝いもいただきながら、校内研修等に小中合わせて延べ105回訪問を行いました。実は指導主事の内訳はここには出してないんですが、指導主事の市教委の指導主事はこのうち19回訪問をさせてもらって支援事務所の方から86回行ってらっしゃるような状況です。

次に学力向上推進研修会、それから学力向上推進事業指定校による研究についてです。これ来年度については前回の総合教育会議でも提案させていただいたチーム担任制等を研究する指定校、これを木本小学校を指定して取り組んでいく予定です。

その他にもこの指定校による部分は入鹿小学校と入鹿中学校も指定して、それぞれの学校の特徴を生かした取組を研究推進していただく予定にしています。

次です。(5)食育と健康作りの推進についてです。

この食育と健康作りの推進については各学校が食に関する指導計画をもとに給食活動などを実施しています。また地産地消の取り組みの一環として、市内統一献立で10月20日に新姫熊野鯛の塩焼きを提供いたしました。

小学校フッ化物洗口推進事業では、熊野市内の子どもたちの齲歯率を下げる取組として進めています。コロナ禍で3年ほど取組が難

しい状況でしたが、今年度は全小学校でフッ化物洗口が実施をされました。

次です。特別支援教育の推進についてです。児童生徒数が減少する中、特別な支援を必要とする子どもが増えている状況があります。その中で、特別支援教育支援員の配置では、今年度小中合わせて19人を配置いたしました。来年度に向けては、支援員から他の職に転職をされたり、体力的な理由から辞められたりする方が多く、今回6人募集しなければならない状況です。もし今日ご参加の皆さんのお知り合い等で支援員募集のお声掛けいただける方がいれば、ぜひご協力をお願いしたいというふうに思っています。

あと県立学校との連携につきましては、今年度から県立学校この辺でいうと東紀州くろしお学園なんですが、そこへ通っているお子さんで、今住んでいる場所にある小・中学校にも副次的な席を設置することにいたしました。このことでこれまで以上に居住する地域の学校との連携が深まることを目指していきたいというふうに思っているところです。副次的な席に関しましては、くろしお学園に通っている生徒さんの中で、希望される方について副次的な籍を認めていく形で進めております。

次に小・中連携の推進です。

小・中連携の推進としましては、中学校区単位での行事等の取組で運動会や避難訓練などの行事を通して交流を推進しています。それから新鹿小中学校のような小中の併設校においては、中学校教員に兼務発令を出し、小学校の教科を指導することで、複式授業の解消なども実施をしているところです。

最後に保護者・地域との連携になります。

まず、学校における囲碁教室事業としまして指定校で子どもたちが囲碁に親しめることによって、この地域の特産品である那智黒石への理解の推進などを進めています。

講師には、プロ棋士のほか、市内で活躍されている方の協力も得て実施をしているところです。次に、子どもたちが郷土の熊野市を愛することができるよう、社会科副読本「わたしたちの熊野市」それから「子ども文化財読本」を使用した授業等を推進しています。「わたしたちの熊野市」については令和3年度の改訂から個人配布等をしています。それからそのことによって「わたしたちの熊野市」については自宅でも手に取ることができるようになっています。「子ども文化財読本」は、これは学校保管としていますが、令和4年度に改訂をいたしまして、現在教育委員会のホームページにも掲載をしています。一般の方もこの文化財読本興味のある方が大変多くありまして問い

合わせもありましたのでその際にはホームページを紹介させていただいております。

最後になりますが、コミュニティ・スクール制度の充実につきましては、令和3年度から市内の小中学校全てをコミュニティ・スクールとしまして学校運営協議会を定期的開催し学校運営への提言等をいただいております。そのことによって地域とともにある学校づくりを目指しています。それから学校からの情報の積極的な発信として学校便り、それからホームページ新聞社等への情報提供も積極的に進めております。

以上学校教育課が所管する事業取組について概略を駆け足ではありますが説明させていただきました。ただ、今回これ説明させていただいたものは、学校教育課の業務の全体の3分の1程度のウエイトで、今回紹介していない、またこういった場では説明できない業務が数多くあります。今後本当に注力すべき業務の精選も行いたいと考えてはおりますが、なかなか実現しにくい状況があります。

この後これらのことも踏まえたご議論をいただければ幸いです。

よろしくお願いいたします。

雑賀総務課長

伴課長からもありましたように、ただいま様々な事業、取組について説明をいたしましたけども、こういうことに力を入れてはどうかまた今行っている事業の新たな展開について、こういうことをしてみてもどうかというような視点で議論いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

糸川委員

今回のこの総合教育会議が行われるにあたって、熊野市の教育、学校教育についていろいろと考えてみたんですけども、熊野市ならではの特色ある学校教育をすること考えると、学力向上するために学力学習状況調査等で三重県のトップになるということを目指すってことは今までの状況を考えるとちょっと難しいんじゃないかなって思いました。あと体力的な教育に特化して、運動能力を向上させるっていうのもやっぱりこういう公立学校では難しいんじゃないかなって思って今この中で、保護者と地域との連携っていうところにも、何か当てはまる教育なんですけども、学力や体力的な特色でなくても、もっと違う切り口から学校教育を考えたときに、この地域の課題に対する取組を考えてみたら、人口の減少っていうことが課題としてありまして、教育の観点から、それに対する対策はできないかなって考えてみました。先ほども図書と長寿課の連携みたいなコラボみたいなのもありましたけどもそういう点でも、こういう人口減少のことを考えながらっていう教育もありかなと思いました。そこで熊野古道とかの歴史的な素晴らしさや、地域の歴史文化を

学ぶことで、郷土愛の強い子どもを育てる教育に特化するのはいかがでしょうかと思いました。熊野に生まれてよかった、将来は熊野に戻って就職したいとか起業したいという子どもを育てる教育に取り組むのはいかがでしょうか。そこで地元を知ることへの教育が大事じゃないかなと思って、先ほどの保護者・地域との連携っていう社会科副読本ってというのが私はすごくいいなと思いました。地元を知ることの教育ってということで、花の窟神社や産田神社、楯ヶ崎とか、観光客も多い場所等のそのマイスターを目指す教育、子どもたちがその場所のガイドをするっていう、そんなイベントを企画したりすることで、この地域の発展にも繋がるし、子どもたちが大人顔負けの知識量をつけることで、なんかよく知ってるねとかガイドしたりとかして、大人に褒められたりとかどんな質問にも答えられるような知識を深めることで、学ぶこととか伝えることの喜びを知ることによって学習意欲にも繋がるのではないかって思ったんですね。これは国語の課題でもある話すこととか聞くこととか、思考判断表現っていう国語の課題克服にも何か繋がるんじゃないかなと考えました。だから、こういうのはいかがでしょうか。

雑賀総務課長
河上市長

関連して他の委員さん、ぜひお願いします。

今のご意見は本当にこれはなかなか教育長が簡単に答えることは難しいと思いますけど、非常に広範囲な視点で内容のある提言。私はある部分については全くその通りでそのままやればいいのにと思いましたけど、今の糸川さんの提言に比べたら非常に細かい提言なんですけど、熊野市は学校がたくさんあるんで、各学校ごとに少し重点を例えば朝5分間、本読むとかって全部でやっていますけど、ある学校は、週に1回は本当に朝の時間1時間本を読む時間にするとか、ある学校は、朝の30分は本当にミニテストみたいなのを毎日やるとかですね、学校ごとにいろんなことを特色あることをやって、それで違いが出るかそういう分析をちゃんとやって、成績を伸ばすことを一つの方法として考えるべきじゃないかと、今は非常にいろんなことを学力向上のために検証していただいたり、そういう専門家の先生に来ていただいて教えてもらったりしていただいているんですけど、状況が変わってないっていう事実はあるんですね。だから今のままではあかんだらうというのは私の単純な発想なんです。だから何か今のままできるとなったら例えば私が言ったのが一つでそれが正しいかどうかわかりません。だけど、何か変えないと、いつまでも変わらないんじゃないかというのは私のちょっと思いです。

雑賀総務課長

他の委員さん、今何か変えないとっていうキーワード出ましたけど何か変えるっていう視点でご意見ないでしょうか？

根引委員

学校がやることいっぱいあるんですよ。

多分職員の超過勤務時間見ると月に80時間以上の人も相当おられると思うんですね。45時間超えると大変なことで80時間超える人もいますのでね。精選することが大事かなってその中で特色ある学校づくりをしていく。だから全部増やしていくのはちょっと難しいところがあると思うんですよ。そういう意味で特色ある学校づくりをしていくということをしていったらいいかなと思います。

教育長

糸川委員から言っていただきました郷土愛の醸成ということなんですが、本当にこれは大事なことだと私も認識しております。だからいろんな挨拶の場、成人式の挨拶とかですね、式辞なんかでは地域のことが一定程度人に話すことができる、説明ができる郷土のことについてですね、そんな子どもの育成、学校教育を進めていかなければならないなということを感じています。本当に同感でございます。

その中で子どもたちがそれぞれのその場所で文化財とかそういったところで来ていただいた方に説明をすると、そういったことも実はですね6年ぐらい前に中学生が英語で熊野古道を説明するビデオを撮ってそれをYouTubeにリリースするというようなことも計画としてはあったんですけどどうまく進めることができなかった。というのがあります。

今ふと思ったのがですね、大人向けに熊野検定っていうのをやっています。これは何回か講義をして、その最後に検定を受けていただくというものなんです、これの子ども版であったりですね、そういったふうにバリエーションを豊かにしていくっていうことは可能であると思っております。何か考えていきたいなとは思っております。もう1点ですね学習指導要領というのがあるんです。1年間に何時間教えなさい。大体1,015時間程度、1年間35週、その中で、国語は何時間教えなさい。算数は何時間を教えなさい。というような標準授業時数というのがあります。これはなぜそういうものが定められているかという、日本のどこへ転校しても、内容、算数は何時間を教えてもらえる。内容もこういったことが何年生で教えてもらえる。そういう量と質の担保っていうんですかね、それをするためにそれはクリアしなければいけない。だからそれ以外のことをやろうと思ったら特別活動であったりですね、総合的な学習の時間というところで特色を持たせていくとかいろんな工夫が必要になってきます。そんな中で、以前熊野市の特色ある学校づくり事業といってですね、学校がプレゼンして、それに通ったら予算をつけましょうというようなこともやっていました。市長にも審査員になっていただいたことがあると思います。それもですね何年かで終わってしまったということ

があります。なかなか子どもたちの力に繋がらない、学力に繋がらなかつたり、生きる力に繋がりにくい。それはこちらのことが原因でございませう。そういったことをもう一度考えてまいりたいと思つてます。非常に貴重な意見をいただいたことをありがとうございます。

糸川委員

もう一点、やったらいいんじゃないかなって思ふ取組がありまして、やはり英語教育というのはすごく大事だと思います。

私も去年関東の方に行ったら、英語を話せるスタッフっていうのは当然みたいな感じになっていて英語に慣れること。私もだからその英語を学習するのはどうしたらいいのかなと思つてスピードラーニングっていう教材についてちょっと調べてみたんですけども、とっても簡単でまずは英語の音に慣れることそれが第一っていうことでした。なので、ものすごく簡単なんですけども、そのスピードラーニングの教材を買うのではなく、日本のアニメとかストーリーのわかっている話のビデオを英語で聞くっていう取組はどうかなと思ひました。それもさっきの授業の中での取組となると、授業日数のことがあると思ひますのでお昼ご飯のときに流す。見たい人は見る、ただ聞くっていう感じの取組もちょうとありじゃないかなと思ひました。三重大との取組で共同研究がなされてるっていうことで学校単位とかいろんなところで、どういふ DVD を流すと子どもたちの反応が良いとか、そういうのを学校単位で変えてみて、その DVD を小学校がこれにして中学校はこれにしてみたいな感じで、そういう研究もありじゃないかなと思ひました。それだとそんなに予算もかからないし授業の時間も妨げにならないし、それで子どもたちが英語に触れ合う機会もあるし、ただ、これをずっと続けるべきだと思うんですね。だから1ヶ月やったら2ヶ月やったらで結果は出ないと思うので、それこそ何年計画とかでやる。本当に長期で考えて続けてやっていただければ、絶対これは効果があるんじゃないかと私は思ひます。

雑賀総務課長
澤田委員

関連してどうでしょう。

今のその英語というところで、学校でやっていくのはすごい良いアイデアだと思います。例えばこれを先ほどの生涯学習で英会話教室のようなもの。例えば小学生向け中学生向け大人向けのレベルに合ったものが、学校でやったものと関連してもっともっとうりたひ人が増えると講師の方が必要だと思うんです。可能かどうかわからないですけど例えば今、ALTの方がたくさん来られているので、そういう方が講師としてはどうかなと思ひました。熊野の一般の方と学校ではない場所で触れ合うということでお互いにコミュニケーションも取れますし。

雑賀総務課長
河上市長

市長どうでしょう。

さきほど特色ある学校づくりということで過去はやって今やめてしまった話があるんですけど、実は、私が途中で予算切ったんです。それは、学力に特化した特色ある学校づくりじゃなくて、その地域の条件を生かすみたいなだんだんだんだんとぼやけてきて、予算要求のための特色ある学校づくりになりかかったんで、それで正直趣旨が違ふということで切りました。今回言ってるのは、学力向上がいくつか課題あるにしても、我々として一番大きな課題と捉えてるんで、そういう意味では、学力向上に特化した特色ある学校づくりという視点で考えてもらったらどうかと、来年度予算はもう無理なんですけど、ぜひ予算なくてもできる話いっぱいありますので、その辺は考えてほしいし、糸川委員がさっき言った地域を学ぶっていう点で今遠足とかは、どうなってるのか知らないんですけど、遠足と地域を学ぶっていうのはセットでもう少ししっかりやったらどうですか。もし十分にやられてなかったら。やってるんだったらそれで結構なんですけど、そういう何かもう少しちょっと工夫する、少しずつ変えていくっていうことがないと、どうもこのままずっと状況変わらないっていうのがあるんじゃないかなという気がします。

英会話の話も非常に大切なんですけど、英会話こそ継続が命で、文法とかの勉強は一時的にやればある程度できるけど、聞く能力って、小さいうちから長くやらないと全く身に入らない。私は全く未だに英会話できませんのでそういう意味では、やっぱり小さいときから長く聞くというのは、短い時間でも長く聞くのは大切なので、それは、非常にカリキュラムが限定されてる中でどうやってやるかっていうのは、いろいろ工夫しないといけないんで、それもほんの少し何ができるかやる方向でぜひ少しずつ変えていっていただけたらありがたいなと思います。

教育長

郷土愛の醸成というか自分の住んでいる地域を誇れる子どもたち、語れる子どもたちということを大事にしておるんですが、その中で子ども文化財巡り、というのを行っております。これは文化財専門員で今学校に籍を置いております和田という職員が案内役を務めてくれております。

あとはですね文化財読本であったり私達の熊野市であったりそういったものを学校でできるだけ活用してもらおうよという話かけはしておるんですが、これをなお進めてまいりたいと思います。

本当にいろんな壁にぶつかってきました。そしてそれを破ろうということも試みてきました。うまくいかないこともいっぱいありました。続けていくということが大事だという話をいただきましたの

で、今後もですねこれだけは譲れないというものを大切にしてい
りたいと思っております。

雑賀総務課長
北野委員

北野委員 ぜひ

給食の時間に著作権の切れた外国の漫画とかあると思うんです
よ。無料で使えると思いますのでそれを流し続けるというのは本当
に耳から入ってくる英会話ということで大切だと思います。

もう一点学力向上の推進という意味で、できれば授業でわからな
い子どもの底上げ。僕はお恥ずかしい話給食の時間が終わりました
ら、先生が横に来て教えてくれました。そういうことも先生の働き方
改革もありますのでこれも一つの方法かなと考えております。これ
は提言ではなしにこういうことがあったということです。

先ほど糸川委員が言われたようなビデオを流していくのは大切な
ことなので、ぜひともよろしく願いいたします。以上です。

雑賀総務課長
伴学校教育課長

伴課長から一言いいでしょうか。

いくつがちよっとお話をさせてください。

まず根引委員の方からありました今も 80 時間以上の教員が相当い
るんじゃないかということなんですがかなり減りました。以前と比
較をすると本当に減っております。以前は 100 時間以上が何人もお
ったんですが、ここ最近では 100 時間以上は数えるほどしかいない状
況に働き方改革の中で進めているところではあります。

ただですね、やっぱりやる事が非常に多くなっている中で学校
では、例えば朝の打ち合わせを全くしなくなってます。特に小学校
は。そういった工夫をすごくやりながら今やってもらってる中で、非
常に苦しい状況もあつたりします。そんな中で何とか今日いただいた
提言もうまく生かせるような方法を探していきたいなと思うんです
が、先ほど糸川委員の方から提案あった英語の部分なんですけれど
も、実は今三重大との共同研究の中でフォニックス教材という
のをやっています。これをリズムよくやっていく CD とかも出ていま
す。加えて、それを体でいろんなことを表現しながらやるのも、三重大
の大野先生という方がやっていただいているんですが、ALT に全部今
教えてくれています。そういったことを学校でやりながら、CD なん
かも日常的に流しやすいテンポのリズムがあつてリズム良くやって
いくような教材もありまして、そういったのを三重大との共同研究
の中でもやらしてもらっています。そういったことを中心に、このア
ニメの部分もそこに入れるかどうかということも含めて研究をし
ていきたいと思いますが、三重大のサテライト機能の多くが津に
行ったためお金がかかるんです。旅費だけでも相当かかってしまっ
て非常に回数が減ってしまう。今まで木本高校にあったときは簡単

にできたことがちょっと難しくなって、Zoom とかも活用しながら工夫して今やっているところではあります。

市長の方から遠足で地域を学んだりっていうのなんですが、これも学校によってやっています。特に松本峠あたりは非常に小学生にとっても行きやすい遠足コースとなっていますので、そういったことで松本峠から熊野古道の辺りはずっと行っておる学校もありますし、その中でただちょっと弱いのは、そこでの、例えば松本峠の歴史のことを学んだりとかそういう部分は少し弱いかなっていうところがありますので、それこそ子どもたちがマイスターになれるような地域の語り部の方にも協力いただいて、やっていくようなことも手かなというふうに思います。

本当に市長も言われる通り僕らとしてもやはり学力向上については、義務教育の機会均等ということ言えば全国の平均レベル。トップなんてとてもじゃないですけど僕らも考えてませんし、思うんですけども、やっぱり一定程度きちっと学力の保障ができる形はこれからも工夫をして模索をしていきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

雑賀総務課長

予定の時間も迫っておるんですが、最後にもしよければ市長から全体通してお言葉をいただければ。

河上市長

いつもそうなんですけど、委員の皆さんからは具体的なことを含めて非常に良い提言をいただいています。いろいろとすぐに教育委員会として消化吸収できないいろんな事情がありますので、すぐにできないがあると思います。でも、やっぱりここにいる我々が変わらないと、子どもたちも変わらないんで、ぜひそういう意味ではですね少しずつで結構です。いつも言いますが市役所もいろんな政策やるときに逆転満塁ホームランを打つのはもう難しい。しかし、ヒットは打てるだろうとヒット4本打ったらホームランと一緒になるんで、少しずつ少しずつその変えてくってということだけは忘れずにですね、その際に、委員の皆さんの提言も十分頭の中に入れて変えていっていただきたいです。先生方および教育委員会で一生懸命やっているのは委員の皆さんも重々承知の上で言ってますのでぜひ少しずつでも結構なんで子どもたちのために引き続き頑張ってもらいたいと思います。委員の皆さんありがとうございました。

雑賀総務課長

予定の時間になりました。今日様々ないただいた意見参考に今後の方向性に生かしていただきたいというふうに考えております。

それでは以上をもちまして、令和5年度第2回の熊野市総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

